

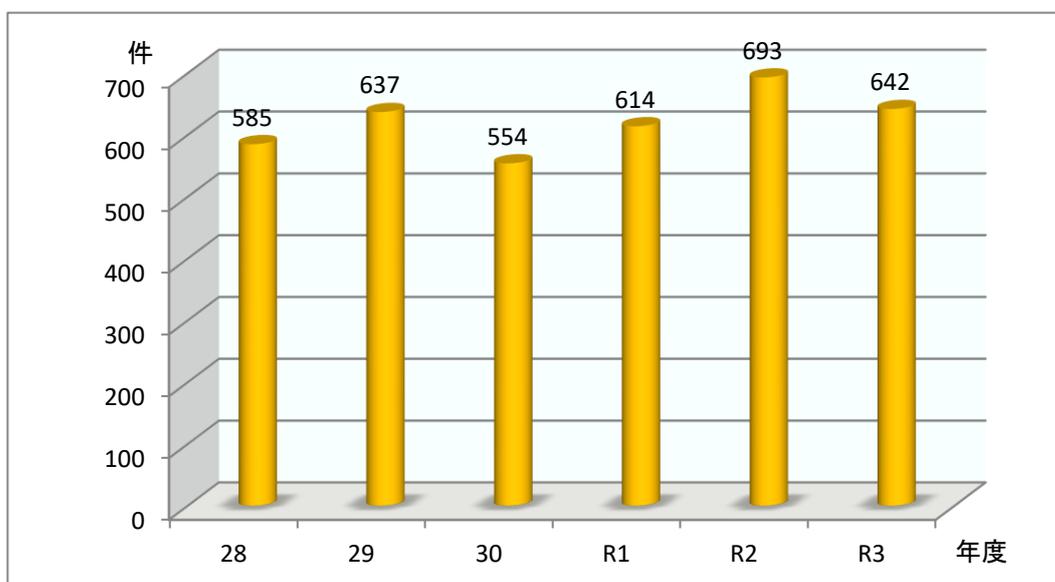
## 18 術中迅速病理組織診断件数

### 解説

術前診断の難しい疾患においては、手術中の病理診断に基づいて手術方法や手術範囲が選択されます。手術中という限られた時間の中で、迅速かつ正確な病理診断をおこなうには、院内の体制作りが重要です。

通常の細胞診や組織診であれば、院外への外注も可能ですが、術中迅速診断は一刻を争うものであり、切片の用意から診断まで院内で完結する必要があります。「最後の砦」機能を持つ国立大学病院として、高度な医療が総合的に提供されることを示す指標です。

### 実績



### 自己点検評価

術中迅速診断は最良の治療を目指す外科医の姿勢の表れでもあります。より適切な手術を行い治療法を選択する上で術中迅速診断は欠かせません。手術前に診断がついていない病変の場合は術中迅速診断が初の確定診断となります。また、最新の縮小手術においては手術範囲の決定のために不可欠です。本学附属病院では手術室と病理診断科の間でリアルタイムで手術野と迅速診断組織の画像を交換し、さらにマイクロフォンを通じて病理医と執刀医が画像をみながら直接会話出来る画期的なシステムを取り入れており、これによって執刀医は病理組織変化を頭の中に描くことが可能でより適切な手術に繋げております。

### 定義

医科診療報酬点数表における、「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP), N003-2術中迅速細胞診」の算定件数。レセプト算定ベースで算出しています。

### 算式

### 実数